

INFORMATION

公開行事予定

5/17(月)~6/4(金) ●個別学校見学会
時間は個別対応

6/19(土) ●オープンスクール夏
10:00~12:00

10/1(金) ●第2回学校説明会
10:00~11:30

10/23(土) ●オープンスクール秋
(時間は未定)

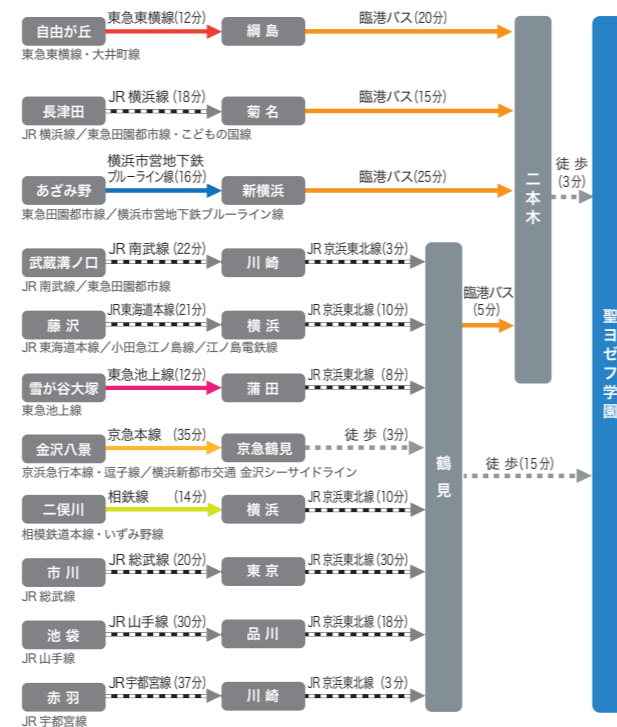
11/6(土) ●第3回学校説明会
過去入試問題勉強会
13:30~15:30

12/19(日) ●体験入試
9:00~11:00

2022 1/10(祝) ●入試直前説明会
総合・グループワーク体験
10:00~11:30

ACCESS

交通の案内

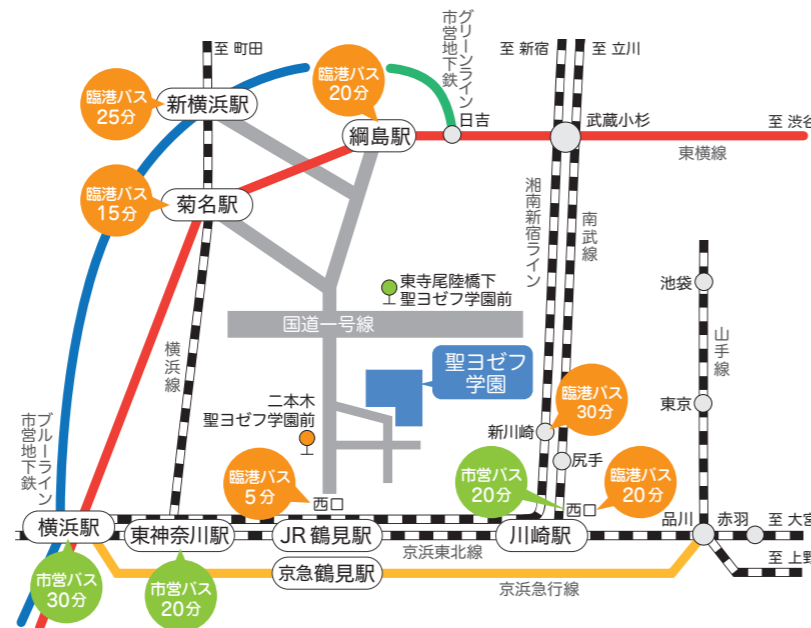


MAP

学園周辺
※臨港・市営バスのご案内

臨港バス
JR 鶴見駅西口、東急綱島・菊名、
JR 新横浜・新川崎・川崎駅西口より
臨港バス【二本木】下車

市営バス
JR 横浜駅・川崎駅西口・東神奈川駅より
国道一号線市営バス
【東寺尾陸橋下】下車



聖ヨゼフ学園
中学・高等学校

St. JOSEPH'S
Junior & Senior High School

 聖ヨゼフ学園 中学・高等学校 
〒230-0016 横浜市鶴見区東寺尾北台11番1号 TEL:045-581-8808 / FAX:045-584-0831
<https://www.st-joseph.ac.jp/>



聖ヨゼフ学園の淵源

アトメント (ATONEMENT) とは?

“And not only so, but we also joy in god, through Our Lord Jesus Christ by Whom we have now received the atonement.”
(欽定訳聖書より)

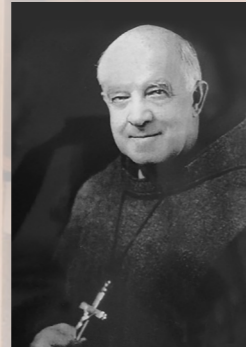
「それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。」
ローマの信徒への手紙 5 章 11 節



●現在の校舎

●ポール・ワトソン神父

1898年、アメリカ・ニューヨーク州に、様々な理由から分裂してしまったキリストの教会をもう一度「一致」させることを目的として、修道会・アトメントのフランシスコ会を創立しました。

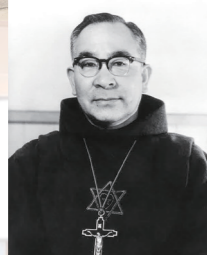


●理事長・学園長 平松達美



1953年、アトメントのフランシスコ会は、戦後の混乱に苦しむ日本にこそアトメントの教育が必要だとの思いから、勝野巖神父を初代校長として、横浜鶴見の地に聖ヨゼフ学園を創立しました。

●初代校長 勝野 巖



●創立期のヨゼフ館



人々の真の平和と幸福を創り出す人

アトメント…和解と一致

校訓



『信仰・希望・愛』の力によって一人ひとりが生かされていくようにとの思いをこめ、それぞれの単語から一文字ずつをとったものが校訓となっています。

混んとした時代に、今こそ「アトメント」を

中学・高等学校 校長 多田信哉

「私たちは、この世の様々な問題を他人ごととせず、自らの課題として積極的に捉え、人々の真の平和と幸福を創り出す人を育てる教育を目指します。」これは今から68年前、学園創立にあたって、初代校長の勝野巖神父が述べた言葉です。私たちが学園の歴史と共に大切にしてきた思いと言葉でもあります。新たな困難に世界が直面している今、「信・望・愛」によって生きる人こそが、この混んとした時代に、希望の光をもたらし、愛をもって互いを支え合い、この世界に和解(アトメント)と平和をもたらすと確信しています。いつの時代も変わらない愛の心で、世界の変化を見つめ、柔軟に対応することができる知識と経験を仲間と共に学んでほしいと思います。そのためにも、神様からいただいた、一人ひとりの賜物を、十分に活かしながら「共に生きる力」を身につけていくことが大切です。すべての学びは、希望に輝く未来に向けての大切な準備となっていきます。



信 カトリック精神に基づく全人教育

信仰 宗教を通じて、自分を知り、他者を知り、世界を知る

●宗教教育

●授業

全学年、週に1時間ずつ「宗教」の授業があります。すべての学年を通して、神様からいただいた賜物をしっかりと受け止め、隣人を大切にしながら世界につながっていく神の愛について学んでいきます。



●宗教の授業 (2020年度実施例)

- ・中1 キリスト教の基礎・『旧約聖書』
- ・中2 『新約聖書』を通してイエスの生涯を学ぶ
- ・中3 『新約聖書』から「イエスの死、復活、昇天、弟子たちの宣教」について
- ・高1 世界の宗教・哲学的対話
- ・高2 長崎に関連するキリスト教・高校生としての『聖書』の読み方
- ・高3 「愛と死」について



●修養会

年に1回、すべての学年において「修養会」が行われます。神父様やシスターの方の講話をうかがいながら、静かな修養の時を過ごします。各学年のテーマに沿って自分自身を見つけるとともに、仲間との分かち合いを行います。

●修養会のテーマ (2020年度実施例)

- ・中1 「かけがえのない『わたし』」
- ・中2 「心の旅」
- ・中3 「奉仕の心を育てよう ～いのちへの共感～」
- ・高1 「わたしにできること」
- ・高2 「仕合わせとは？」
- ・高3 「愛」

●生命尊重学習会

「修養会」と同様、全学年において年1回、「生命尊重学習会」の時間が設けられています。学年ごとに音楽療法士、看護師、NPO法人の責任者など、各界で活躍されている講師を迎え、生命の尊さと人間としての生き方を学びます。

●生命尊重学習会のテーマ (2019年度実施例)

- ・中1 「子供から大人へ」
- ・中2 「異性」
- ・中3 「しあわせになるために」
- ・高1 「生きるってシアワセ!」
- ・高2 「人権」
- ・高3 「愛」



生涯を通じて宝となる「自分自身と向き合える時間」

高校3年生 / Oさん

私にとって宗教の授業は、キリスト教を中心とした世界の宗教を知るための「学びの時間」でもあり、「私の使命」や「自分の存在」についてゆっくりと考えることができる、「自分自身と向き合える時間」でもあるように思います。年に一度行われる修養会では様々なテーマのお話を通して、より深く、たっぷり時間をかけて自分を見つめ直すことができます。きっとこの学びは、学園を卒業した後も私たち一人ひとりに、自身を受けとめ、前に進む勇気を与え続けてくれるのではないかと考えています。

自分を知り、自分を活かす。誰かの支えとなるために

授業だけではなく、日々の生活の中でも、カトリックの価値観で生きられるようになってほしいと思っています。神様からいただいた大切な命を受け止め、自分自身を知り、与えられた賜物を十分に活かす。自己中心的ではなく、常に相手の気持ちや立場になって考える。自分の時間を誰かのために惜しみなく使うことができます。一見自分にとってはマイナスになってしまうと思われることでも尊い時間であると思える。そういったことを心に留めて、これからの人生を歩んでいってほしいと考えています。私自身もこの学園で12年間、宗教教育を受け、学生時代にカトリックの洗礼を受けました。誰かのために支えとなったり、様々なボランティア活動等を通じていけたりするのも、この学校で学んだからこそだと思います。これからは、この教を後輩でもある生徒の皆に伝えていくことが自分のミッションであると信じ、精一杯一緒に学んでいきたいと思っています。



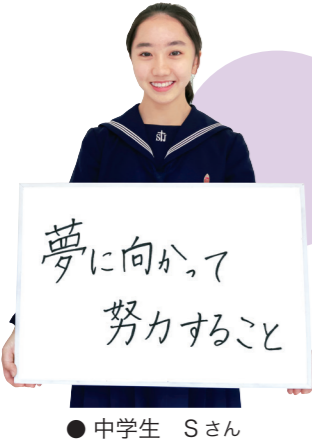
●宗教部 部長 / 37回卒業生 太田 絵美



望
希望

希望を持ち続け、 世の灯となるために

生徒たちが「学習者」としての自分と、将来の〈希望〉について語ります！



● 中学生 Sさん

レポートの作成を通して、自ら考え、探究する楽しさを実感！

小学生の頃から草花や干潟などの多摩川周辺の環境調査を行い、昨年は淡水と海水が混ざり合う汽水域についての観察や調査を行いました。レポートでは、調べることももちろん大切ですが、それをどのようにまとめると相手により伝わるのかを一番に考えました。私は今回の経験を通して、自ら考え、学ぶことの楽しさを実感し、木原記念こども科学賞(中学校の部 神奈川新聞社賞)を頂いたことで達成感も得ることができました。この経験を活かし、今後も興味を持ったことには積極的に挑戦していきたいです。

自分を見つめ直したターム留学。振り返ることが未来に繋がる

小学生の頃から続けているバレエと勉強の両立で忙しい毎日を送っていた私にとって、ニュージーランドのターム留学は自分というのを見つめ直し、振り返る重要なターニングポイントになりました。言葉や文化の壁にぶつかり、孤独感にさいなまれながらも自分について考え、そうして何とかその壁を乗り越える。この時間を持てたことで、これからの自分の進むべき道が見えてきたと感じます。「振り返ることが未来に繋がる」ということを実感できた、貴重な経験でした。こうした経験は、誰もができるわけではありません。自分がいかに恵まれた環境にいるかということがよく分かりました。この貴重な機会を与えてくださった聖ヨゼフ学園の先生方、両親に感謝します。



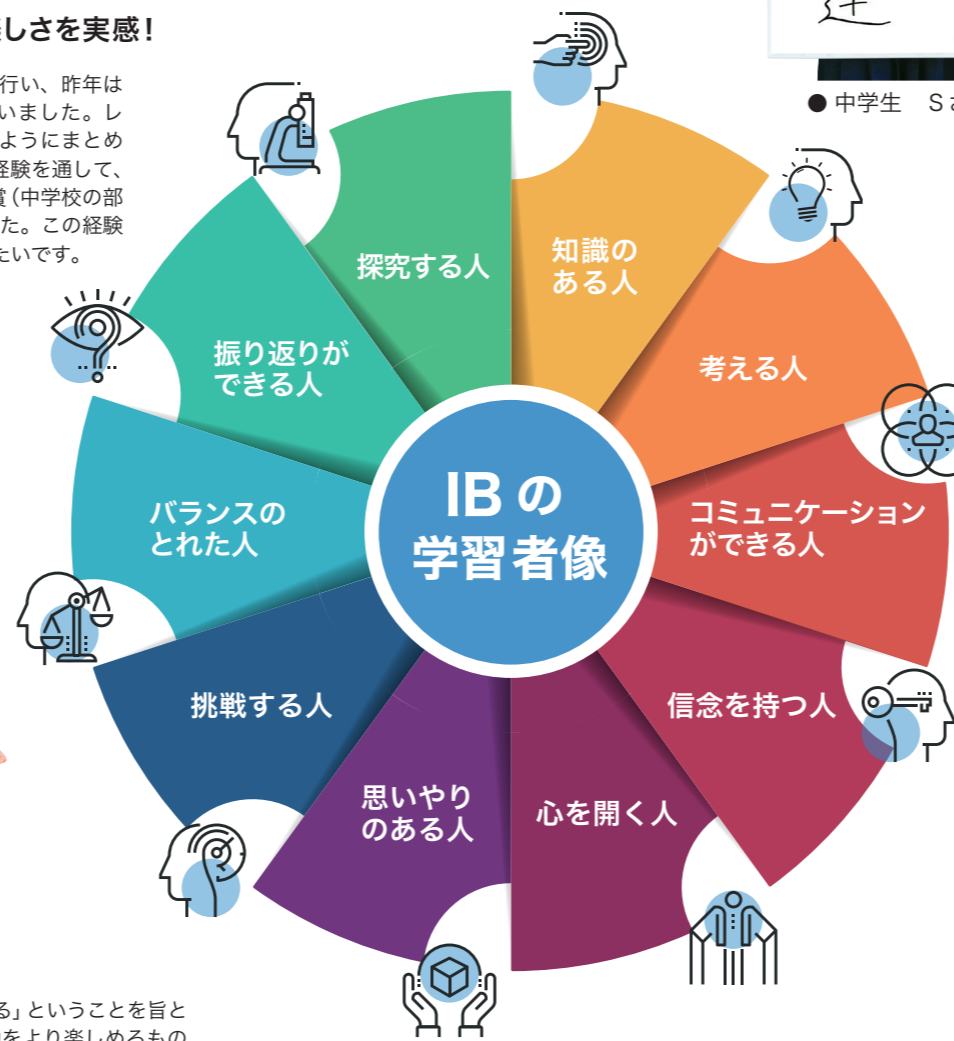
● 高校生 Iさん

ただ今、チャレンジ・スピリット鍛錬中！

私は男子一期生として今後、「何事にも Try し、作ってみる」ということを旨として中学校生活を送っていきたくと考えています。部活動をより楽しめるものとして、後輩たちがのびのびと学校生活を送れるようなアイデアを出して実現させたりするなど、小さなことから大きなことまで様々なことに挑戦していきたいです。このような体験を積み重ねた上で、私は将来、愛してやまない自動車関係の仕事に就きたいと考えています。この分野で臆することなくどんどん挑戦をしていき、みんなが Happy になるような車を作ることができるエンジニアを目指します。そのためにも、この学校生活で様々なことに挑戦するチャレンジ・スピリットを鍛えている最中です。



● 中学生 Cさん



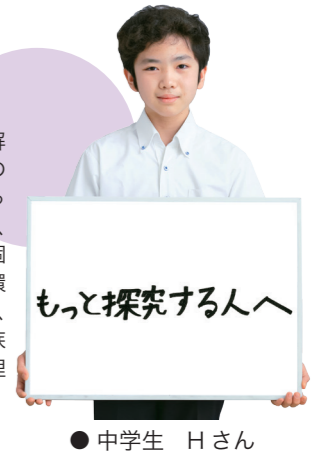
● 中学生 Sさん

自分の意見に自信が持てるようになった、「探究」の学び

私は聖ヨゼフ学園中学校に入学してからの1年間で、自分の意見に自信を持つことができるようになりました。小学校までは、発表や自分の意見をまとめる時に、面倒くさいとか、恥ずかしいと思うことが多かったのですが、授業内で様々な探究を進めていく中で、自分の意見のもととなる正しい情報を集める方法や、相手とのコミュニケーションの取り方などを学び、発表やまとめに自信が持てるようになりました。おかげで、小学校の時にはちっとも書くことができなかった作文も、今では四百字詰め原稿用紙に4枚分も書けるようになりました。将来は、これらの探究で学んだことを活かし、正しい情報をもとに、様々な人と、有意義なコミュニケーションをフレンドリーに取ることができる人物になりたいです。

この学校の環境が成長させてくれた探究心

僕は、聖ヨゼフ学園中学校で、わからないことをそのままにせず理解しようとする探究心を成長させることができました。例えば、英単語のスペルを覚えることや、数学の方程式など、小学校ではやってこなかった難しい内容も、探究心を持つことでできるようになりました。それは、熱心になって教えたり伝えたりしてくださる先生方がいらっしやり、個別で相談や指導を受けることができるアトリウムのような場所がある環境のためだと感じています。これからも、それぞれの教科の先生方に、知識だけではなく学び方や学ぶ意味を教えてもらったり、友達や家族にもアドバイスをもらったりして、一つひとつのことを深く探究し、理解することの楽しさやうれしさを感じていきたいと考えています。



● 中学生 Hさん

自分が楽しめば、きっと伝わる！

私は、校内外のレシテーション大会や部活動の発表、バレエの公演など、今まで舞台上立つ機会が多くありました。本番の前には、周囲に呆れられるほど練習を重ね、自信や技術を身につけます。その後で、見てくださる方に伝わるように表現を深めていくのです。一生懸命努力する姿や心から楽しんでいる様子は、きっと舞台上からも伝わると信じています。舞台上立つ時間は私にとって最高に楽しい時間なので、お客様にもその姿を見て楽しんでいただけるよう、これからも目標に向かって楽しみながら努力をしたいと思えます。



● 中学生 Aさん

学ぶこと、表現すること、“自分らしさ”を灯すこと

「表現すること」は、“SENSE of MYSELF = 自分らしさ”を灯すことだと思います。私の場合、学びの場に英語を通して五感を働かせると、世界観が広がります。判別式 $D=b^2-4ac$ の D が Discriminant に視え、酸素を受け取る Oxidation と失う Reduction から酸化還元イメージに触れ、社会問題を Sustainable Development Goals により嗅ぎ分け、音楽のような英語の Pronunciation を聴きとり、和訳することで日本語の持つ繊細な表現も味わうことができます。“自分らしさ”は、積み重ねた知識と理解から生まれ、他者のために役立てる喜びにも繋がります。表現する“自分らしさ”の灯を五感の万華鏡で学びに多重反射させ、未来を輝かせることができれば幸せです。



● 高校生 Mさん

「何故？」を突き詰め、「主体的に学ぶ」経験が切り拓いた未来

私は聖ヨゼフ学園卒業後、大学・大学院で中世ヨーロッパの歴史を研究しました。歴史に興味・関心を持ったのは、高校1年生の時の世界史の授業がきっかけです。単純に歴史上の出来事や人物、年表等を覚えるのではなく、その出来事が起こった背景や意図を自ら考える場面が多かったです。このように、能動的に情報を取得し「何故？」と突き詰める経験を重ねたことにより、いつしか「主体的に学ぶ力」を身につけることができたように思います。中高生の間に身につけたこうした学びは、大学・大学院での歴史学の専門的な研究につながり、さらに、自らも歴史学の面白さを伝えたり、学びのきっかけを作ったりするお手伝いをしたいという想いを抱くようになりました。現在は、マスコミ業界で、新聞を中心としたメディアを活用する【広告】を通して、老若男女問わず多くの人の「学び」や「夢」のきっかけを生み出しつづけています。一人ひとりの価値観や個性を尊重する聖ヨゼフ学園の校風のもと、皆さんも自分の「好き」を食欲に突き詰め、様々なことを主体的に学んでみてください。

● 新聞社勤務 51回卒業生 市川 裕里佳さん



ライバルは過去の自分。生涯学び続ける人になるために

この先10年後、20年後、どのような教育をしていくべきか、と考えた時に行きついたのが国際バカロレア (IB) 教育プログラムでした。「自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけ」という使命のもと、2020年4月、中等教育プログラム (MYP) の授業を開始しました。8つの教科群、ユニットごとの評価、知識蓄積から思考力発揮……。生徒は戸惑いながらも活き活きと学んでいます。自分の考えを発信するチャンスが常にあるからです。「本当の学び」がここにあるのではないのでしょうか。「自分で考えて行動し振り返りを通じてまたさらに考え行動し振り返る……」という自分なりのトライ&エラーの繰り返しです。他者との比較ではなく過去との比較、さらに、未来への学びの構築です。このように、IBの学びを通じて生涯学び続ける人になることを願っています。そしてその力は誰もが持っていると思います。

● IB (MYP) コーディネーター 吉野 英男





愛に満ちた教育で、 愛に生きる人となる

愛に満ちた教育

一人ひとりがお互いを見つめ、みとめ合える環境 (教員◀生徒・生徒◀生徒)

少人数 (1学年2クラス) の学び舎

愛に生きる人となる

授業・進路指導 一人ひとりを真摯にみつめ、ともに歩む道のり



●発信型の授業

すべての授業において、知識をインプットするだけでなく、得た知識を活かして探究し、その考えた内容を発信する機会を多く設けています。すべての担当教員が、一人ひとりの発信を丁寧に分析し、適切で有用なフィードバックができるよう心がけています。



●少人数授業

小規模校の強みを活かし、特に高校3年生の選択科目などにおいて、少人数の授業を実施しています。過去にはマンツーマンの授業もありました。2020年度は、教員1人に対して生徒2人の授業が開講されました。



●小論文個別指導

現在、数多くの大学入試で必要とされる「小論文」。その他に「志望理由書」や「自己推薦書」、面接など、教科外で対策が必要とされる受験科目・書類について、マンツーマン、場合によっては生徒1人に対して複数の教員が個別指導にあたります。



●進路指導

生徒と教員が、一人ひとりの適性を一緒になって見極め、適切な進路をともに見つける。そして、目標を見定めたなら、そこへ向かって生徒・教員が一体となって進んでいく。そういった、言ってみれば一人ひとりに合わせた「オーダーメイドの進路指導」を行っているのが聖ヨゼフ学園です。



●TT (チームティーチング) 授業

多くの授業において、一つのクラスを複数の教員で受け持つ「TT (チームティーチング) 授業」が実施されています。具体的には、英語や国語といった語学系の科目から、社会や音楽まで、幅広く行われています。

中学生の頃に抱いた科学への興味。今、そのまなざしは世界へ

私はもともと医療に興味があり、薬剤師になりたいと考えていました。そこから科学全般に興味を持つようになりました。そして、中学3年生で麻布大学の科学実験教室に参加した際、遺伝子組換え実験やPCR法による遺伝子増幅実験などで科学実験というものに触れ、将来理系の研究者になりたいと決意が固まりました。純粋に学問を究め、生命の仕組みやそれぞれの組織の働きを追究してみたいとそのときに思いました。そこから国立理系の大学を目指し始めました。学校では、個別で受験科目に対応してもらえたので共通テスト、個別試験ともに悔いのない結果となりました。大学は、1年次は一般教養で、2年次から学部配属となるので、専門科目だけでなく幅広い知識を身につけることができます。様々な視点を持ち世界で活躍できる研究者になれるよう、大学で研鑽を積みみたいと考えています。



●北海道大学 総合理系 59回卒業生 相川 綾音 さん

行事 みんなが輝くために、みんなで支える

〈体育祭〉

5月に行われる体育祭。体育祭実行委員が中心となり、すべての生徒がなんらかの係に就く、すべての生徒が複数の競技に出場する、すべての生徒が参加して学園名物「学年演技」を行う。全員が「主役」であるからこそ、本校で最もアツク盛り上がる行事となるのです。



〈学園祭 (ヨゼフ祭)〉

毎年、全校生徒でテーマを決め、その意図に沿って学年、クラブ・課外活動、有志による企画を発表します。また、すべての生徒が学園祭を運営する係を必ずこなします。生徒一人ひとりが、いくつもの役割をこなし、忙しく駆け回りながらもそれぞれの輝きを放つ。それが「ヨゼフ祭」です。



〈英語弁論大会〉

生徒が日ごろの学習成果を発信する行事の一つとして、英語弁論大会があります。オーディションを経て代表を勝ち取った生徒は、それぞれ教員からマンツーマンの指導を受け、本番にのぞみます。「英弁」間近になり、学校のあちこちで生徒たちが表情豊かに英文を暗誦する姿は、聖ヨゼフ学園の風物詩の一つです。



「大変」を「充実」に変えてくれた、たくさんの支え

高校3年生/生徒会会長 Nさん

生徒会会長を務めた約1年間、生徒の中心となって生徒会を運営していく立場として、どれだけ先を見通せるか、周囲の意見も取り入れながらいかに皆に納得してもらえるような結論を出せるか、プレッシャーや不安を常に感じ続ける日々でした。さらにコロナ禍も重なって、まさに暗中模索の1年でした。しかし、一緒に活動していた仲間や同級生、先生方の励ましが支えとなり、それがモチベーションに繋がって、なんと大役を務めることができたのではないかと考えています。今「大変だった」よりも「楽しかった、充実していた」と感じられているのは、たくさんの方々の支えがあったからです。今後は、私が誰かの支えになれるよう、様々な経験を積み、考え、行動していきたいと考えています。



クラブ・委員会 責任を背負うことの「意味」と「充実」を知る

ほとんどの生徒がクラブ・委員会活動を行っています。そして、高学年になると多くの生徒がなんらかの責任ある役職に就きます。少人数の学校であるがゆえ、だれもがうちに秘めているタラント (才能) が見出され、輝きを放つのです。ときに悩み、苦しみながらも、充実した学園生活を生徒たちは送ります。



●バスケットボール部



●グリーンクラブ



●S.J.V. (St. Joseph Volunteer) 委員会

コロナ禍で再確認した「大切な場所」と「聖ヨゼフ学園らしさ」

高校3年生/バレーボール部部長・部長会会長 Kさん

私にとって部活動は、仲間と一所懸命に取り組むことの楽しさ、どんな困難に直面しても決して諦めないことの重要性、目標を達成した時の喜びなど、様々なことを体験できる大切な場所です。2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、その大切な場所が脅かされた1年でした。私は、各部の部長が集まる部長会の会長として、新入生に、ぜひとも部活動に興味を持ってもらいたいと考えました。そこで、各部にお願いし、クラブ紹介のポスターやビデオを作成してもらいました。例年にはない取り組みでしたが、結果として、中学生から高校生までが切磋琢磨し、一人ひとりがお互いを支えあう、聖ヨゼフ学園らしいアットホームな部活動の雰囲気を感じることができたと思います。今後このような雰囲気、後輩たちに受け継いでいってほしいと考えています。



愛ある中で過ごし、愛の存在に気づき、愛に生きる人となる

人と真摯に向き合い、真剣に相手のことを考え行動することは非常に難しいことです。時に相手に対して、厳しい言葉や態度で接しなければいけなくなる。そういった場合もあるでしょう。生徒と真摯に向き合おうとすると、そのような場面に何度も突き当たります。真剣に相手のことを考え行動することを仮に「愛」と呼ぶならば、「愛」にはそういった厳しい一面が確実にあります。生徒が、たとえ在学中に気づかなくても、卒業したあとも、ふとしたとき、あるいは何か困難に見舞われたとき、あるいは親になったとき、そういった厳しさが、愛あるものであったと気づいてくれればよいと思っています。本当に愛ある環境で学園生活を送っていかねば、それに気づくことはありません。愛ある中で過ごすから、愛の存在に気づくことができ、愛に生きる人となるのです。生徒と教員、あるいは生徒同士が深く、篤くかかわり合うことができる聖ヨゼフ学園は、愛に生きる人となるための学び舎であると考えています。



●教頭 武田 けい子